

【地域デザイン科学研究科人間文化専攻（修士課程）カリキュラム・ポリシー】

（教育課程の編成）

本専攻のカリキュラムは、人間・文化に関する高い問題意識を持ち、高度な専門探究力、学際的総合力、応用・実践力によって地域社会の創造や変革に貢献できる「イノベーション人材」を育むために以下のように構成されている。

1. 本専攻は、教育目標を、人間とその心理・文化に関する高度な知識と技能を身につけ、地域社会の変革に貢献できるイノベーション人材の育成においている。
2. イノベーションの基礎・基本を身につけるために、「イノベーション・リテラシー」を、必修科目として配置している。
3. 学生の課題意識に対応させるため、履修基準は「学際性重視型」と「専門性重視型」を設定している。
4. 学際性重視型では学際的・俯瞰的に地域文化を捉えるために専攻基盤科目「人間文化創造特論」を必修科目として配置している。また、主体性の形成を目指す「イノベーション・コア」と地域での実践活動を行う「プロジェクト研究」を必修科目として配置するほか、他専攻科目を選択必修として位置づけている。
5. 各コースの専門探究力を形成するために、「コース科目」を配置している。
6. 学生の専門探究力を深化させるために、「特別研究」「特別演習」を配置している。
7. 学生の興味関心や将来の進路の希望を重視し、専門探究力の定着をはかるために、「学位論文」、「修了演奏・修了制作」（スポーツ・芸術文化コース）など、多様な修了研究の形態をとっている。
8. 21世紀的課題に取り組む力を身につけるため、分野横断型プログラムと専門高度化プログラムから成る、課題対応型プログラムを設定している。
9. 職業等をもつ学生の修了を支えるために、標準修了年限を超えて、一定期間にわたり計画的にカリキュラムを履修することができる長期履修制度を設けている。

（教育・学習方法）

学生が、ディプロマ・ポリシーに掲げた諸能力を獲得できるよう、講義、演習、実習、実技等を体系的に実施する。本専攻においては、対話や討論、実験・実習等を実施する。

（学習成果の評価）

成績は、S, A, B, C, 及びFの5段階をもって表し、S, A, B, 及びCを合格、Fを不合格とする。各授業科目では、シラバスにレポートや最終試験、実技・実演、作品等といった当該科目の「成績評価の方法」を明記し、可能な限り複数の評価手段によって成績を判定する。

修了研究の審査においては、修了研究審査基準に基づき厳格な審査を行う。